

## 平成29年度 仙北市農業賞表彰式



農業賞を受賞した畜産部門の伊藤則夫さん、園芸部門の高橋勉さん、稲作部門の小玉均さん(右から順に)。

平成29年度仙北市農業賞の表彰式が10月21日に産業祭の褒賞授与式に先立ち行われました。農業の振興と発展に尽力された3個人が表彰されました。

受賞者は、市内の農業関係団体が個人や団体を推薦し、市や県、JAなどで構成する選考委員会が審査を行い決定しました。

表彰式では、門脇市長が稲作、園芸、畜産部門の受賞者に表彰状と記念品を手渡し「皆さんには各分野で、今後とも仙北市の農業を先導してもらいたい」と話しました。また、農業賞受賞者に勝るとも劣らないことから、小原洋一さん、藤枝喜久子さんに特別賞が贈られました。

## 電子情報通信学会・電気学会 合同研究会



研究者や技術者の発表に興味深く耳を傾ける参加者。

10月19日と20日、あきた芸術村で電子情報通信学会・電気学会合同研究会が開催されました。この学会は、角館町出身で市の観光大使をお願いしている青山学院大学の橋本修副学長が、同学会に所属していることが縁で実現したものです。学会では、大学や企業の第一線でマイクロ波や環境電磁工学、電磁環境技術の研究活動などに携わっている研究者や技術者が日ごろの研究成果と考察を発表し合い、さらなる技術の進歩をめざそうと、活発な意見交換を行いました。

## 親睦深め合う 東京かくのたて会

10月29日、中野サンプラザ（東京都）を会場に「第32回東京かくのたて会総会」が開催され、会員約40人が出席しました。総会に引き続き行われた懇親会では、会員が互いの近況や懐かしい思い出話に花を咲かせ、カラオケなどの余興や福引きが行われました。また、仙北市のお菓子や漬物などの特産品も販売され、ふるさとの味を懐かしむ声が聞かれるなど、大変好評でした。



和気あいあいと共同調理実習でカレーを作る生徒たち。この後美味しく食べました。



飛び入り参加のカラオケで、会場は大いに盛り上がりました。

## 台湾の高校生と角館高校の生徒が 姉妹校交流

10月23日から25日にかけて、台北市の台湾師範大学附属高級中学（日本でいう高校）の生徒25人が仙北市を訪れ、学校間交流や農家体験を行いました。24日は、一昨年に姉妹校提携を結び、修学旅行を通じた相互交流を続けている角館高校を訪れ、生徒たちから熱烈的な歓迎を受けました。昼食には共同調理実習でカレーを作ったり、武家屋敷の案内や茶道体験などを通じて交流を図りました。一行はその後、班ごとに宿泊先の農家民宿へ移動。農山村の暮らしぶりを体験しながら、農家の方々との親睦を深めていました。



クニマスと田沢湖をテーマに意見を述べ合った公開討論会。

## 自然保護と開発を テーマに公開討論会

10月29日、田沢湖クニマス未来館で「クニマスにける夢〜自然保護と開発〜」と題した公開討論会が開催されました。

この討論会は、仙北市が主催し、日本ペンクラブ環境委員会の協力により行われたもので、市民など約60人が参加しました。

討論会の前には、日本ペンクラブ環境委員会で女優の三咲順子氏が「辰子姫とクニマス」と題した朗読劇を披露しました。

討論会では、日本ペンクラブ副会長で作家の西木正明氏（西木町出身）がコーディネーターを務め、同委員会メンバーと門脇市長、田沢湖再生に向けて活動に取り組む団体の代表など、パネリスト9人が出席しました。

地元団体からは、丸木舟の会の三浦久会長、田沢湖に生命を育む会の田口達生代表、田沢湖再生検討会の吉田裕幸会長が、それぞれの立場から、クニマスがいた頃の環境を取り戻すための活動を紹介しました。

また、ペンクラブのメンバーからは、田沢湖再生による観光振興などについて助言があり、田沢湖の未来を考える有意義な機会となりました。

## 旧角館高等女学校・角館南高校跡地 記念碑除幕式



待望の記念碑お披露目の瞬間。

10月19日、角館高校駒草キャンパスの敷地内に旧角館高等女学校・角館南高校跡地記念碑が建立され、同窓生や関係者約60人が見守る中、除幕式が行われました。角館高等学校同窓会会長の草薙良子実行委員長は「記念碑を建てたいとずっと考えていたが、やっと建立することができてよかった。長く愛され



同窓生と関係者の皆さんで記念撮影。

ることを願う」とあいさつしました。また、除幕後に贈呈された角館高校の榎尾尚樹校長は「駒草精神と記念碑を守り、角館高校のシンボルとして大切にしていきたい」と話しました。

# 生保内小児童 秋田市でふるさとPR

10月18日、生保内小学校4年生児童33人が秋田市のJR秋田駅前で仙北市産の食材を使った弁当やクッキーを販売しました。

この活動は学校のふるさと教育の一環として行われたもので、手作りのポスターを使って仙北市のPRも行いました。2013年から提供している「駒ヶ岳あんべいいなチャーハン弁当」の食材には、地産産のネマガリタケや児童が育てたエダマメ、シイタケが使われています。また、



お客さんとのコミュニケーションもバッチリ！活動の収益は、仙北市と防災提携している岩手県山田町の被災した学校に送っています。



新商品として、あきた芸術村の工コニコ農園のブルーベリーを使ったジャム入りのスイーツ「ベリーなクッキー」も児童が考案し販売しました。約100個用意したチャーハン弁当はほぼ完売し、約300枚用意したクッキーは175枚売れました。

10月30日、市役所田沢湖庁舎に活動の報告に訪れた児童たちは「最初は、声をかけるのは緊張したけれど、たくさんのお客さんに買ってもらえてうれしかった」と話しました。



活動成果を報告に訪れた代表児童の皆さん（前列）。

# 田沢湖・澄清湖 姉妹湖締結 30周年祝う



台湾自来水公司の関係者の皆さん。

10月27日、田沢湖と台湾・高雄市の澄清湖との姉妹湖締結30周年を記念して、外交評論家の加瀬英明氏による講演会が田沢湖総合開発センターで開催されました。「姉妹湖締結30周年、その意義とこれからの活かし方」と題し、田沢湖と台湾の交流について講演した加瀬氏は「台湾の人は、今から30年前に、まだ台湾との間に姉妹関係を結ぼうとする人がいなかった時に田沢湖が姉妹湖関係を作ってくれたことを今でも感謝している」と話しました。また、外国人観光客の誘客について「おもてなしの心が外国人観光客の心をつかむ。日本の和の心を味わうことができる場所を作りたい」と呼びかけました。講演会後には、澄清湖



講演する外交評論家の加瀬英明氏。

を管理する台湾自来水公司の関係者32人を迎え、姉妹湖締結30周年記念祝賀会が駒ヶ岳グランドホテルで開催されました。台湾自来水公司第7区管理所の王明孝所長は「たつこ像の前で記念写真を撮ったが、たつこ像はぎつと両国に幸運をもたらしてくれる。今後も交流が末永く続くよう願っている」と話しました。祝賀会には、30年間交流を続けている仙北市国際交流協会の関係者85人が出席。台湾の自来水公司関係者らと会話を交わすなど、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めていきました。



参加者は熱心に耳を傾けました。

戦没者遺族相談員・戦傷病者相談員が再任されました

平成29年10月1日から平成31年9月30日までの2年間、厚生労働大臣から各相談員業務が委託されましたのでお知らせします。（敬称略）

◆戦没者遺族相談員 藤原剛



住所 角館町竹原町37

☎ (54) 4515

相談内容 戦没者遺族の各種年金・給付金等に関する相談、生活上の問題や利用可能な福祉制度等に関する相談

◆戦傷病者相談員 佐藤公平



住所 田沢湖角館東前郷字七ツ間

201 ☎ (44) 3528

相談内容 戦傷病者の各種年金・給付金等に関する相談、生活上の問題や利用可能な福祉制度等に関する相談

上卒田集落会  
「鉄道の日」鉄道関係  
功労者大臣表彰を受賞



左から上卒田集落会の真崎靖宏さん、真崎誠幸さん、川合藤夫会長、石橋臣平さん。

10月16日、上卒田集落会（川合藤夫会長）が、国土交通省で平成29年（第24回）「鉄道の日」鉄道関係功労者大臣表彰を受賞しました。

鉄道をめぐる一般協力者関係部門で受賞した上卒田集落会は、JR田沢湖線の神代駅舎内外の清掃活動を昭和52年から継続しており、駅の環境美化に大きく貢献されたことが認められ、今回の受賞となりました。

# 第44回 秋田県交通指導隊大会

10月27日、秋田市文化会館で開催された第44回秋田県交通指導隊大会で、仙北市から交通指導隊員2人が優良隊員として表彰されました。表彰式終了後には秋田市八橋多目的グラウンドに移動し、観閲式が行われ、隊員の士気高揚を図り、大会の幕を閉じました。

表彰者は次の方々です。（敬称略）

▼永年勤続（20年以上）優良隊員表彰

田村萬里子

▼30年以上勤続優良隊員表彰 高橋良和



表彰を受けた田村萬里子さん（右）と高橋良和さん（左）。



# 第13回

# 仙北市産業祭

10月21日・22日、神代市民体育館を主会場に「第13回仙北市産業祭」が開催されました。

当日はあいにくの天候となりましたが、たくさんの方が会場を訪れました。今年度の農林産物品評会には野菜・果実などを中心に341点の出品がありました。2度にわたる豪雨被害があったものの、出品数は昨年を上回り、どの部門でも優れた出品物が多数見られるとの講評をいただきました。特別賞を受賞された方々をご紹介します。  
※敬称略（ ）内は住所

### 農林産物等品評会特別賞受賞者

- 仙北市長賞**  
馬鈴薯 藤原晴夫（角館町下延）  
ほうれん草 若松金男（西木町上松木内）  
籐細工籠 富木真喜子（西木町松木内）  
**秋田県農業協同組合中央会長賞**  
さやえんどう 佐藤治栄（田沢湖角館東前郷）  
牛蒡 千田光琉（田沢湖田沢）  
キャベツ 新山良和（田沢湖角館東前郷）  
**仙北市議会議長賞**  
玉ねぎ 高橋節子（田沢湖梅沢）  
**秋田おぼこ農協 代表理事組合長賞**  
山の芋〔神代2号〕 藤川栄（田沢湖角館東前郷）  
ねぎ〔夏扇パワー〕 田中弘正（田沢湖生保内）  
白菜〔オリンピア85〕 菅原清康（角館町菌田）  
**仙北市商工会長賞**  
長いもおやこ 千田ミワ（田沢湖田沢）  
**秋田県農業共済組合 組合長理事賞**  
玄米〔あきたこまち〕 佐藤一也（西木町上荒井）  
**仙北東森林組合 代表理事組合長賞**  
しいたけ 青柳忠明（角館町下延）  
**仙北市農業委員会 会長賞**  
ブロッコリー 青柳忠明（角館町下延）  
**秋田県たばこ耕作組合 組合長賞**  
葉たばこ 門脇政広（角館町山谷川崎）



市総合産業研究所のブースでは角館町中川産「どじょう」の唐揚げが好評でした。

## 国道46号 除雪安全祈願祭・除雪車輜出動式

10月30日、国道46号の除雪安全祈願祭と除雪車輜出動式が国土交通省角館国道維持出張所で行われ、関係者約60人が作業中の無事故と冬期間の道路交通の確保を誓いました。

神事が行われた後の出動式では、見学に訪れた角館保育園の園児48人が安全運転の願いを込めてオペレーターに「がんばってください」などと話しながら大きなカギを手渡ししました。また、除雪作業を知ってもら

おうと、園児たちを対象に除雪機械の体験乗車が行われたほか、除雪車輜の雪をよける「スノーブラウ」に自由な絵を描いたり、園児たちは初めての体験に興奮気味に「すごい」「楽しい」などと声を上げていました。

角館国道維持出張所が担当する除雪区間は大仙市協和から仙岩トンネルまでの55kmで、除雪作業を受託する万六建設(株)が冬期間の道路交通の安全確保にあたります。

旗を振って出動を見送る角館保育園の園児たち。

園児たちは除雪車輜に自由にお絵かきを楽しみました。

## 仙北市包括支援センターより 地域づくり座談会を開催しました



西木総合開発センターでの様子。

10月18日・19日、北海道から地域福祉アドバイザーの鳥居一頼氏を招き「地域づくり座談会」を開催しました。角館交流センターには23人、西木総合開発センターには18人、田沢湖総合開発センターには28人の市民や福祉関係者が参加し、「移動支援」「除雪支援」「安否確認・見守り」などの地域の課題について話し合いました。

仙北市では支え合い協議体（第1層協議体）・生活支援コーディネーターが2人配置されていますが、今後は旧町村ごとに1か所ずつ第2層協議体が設置される予定です。更に細かな地域の中に入り、協議体・生活支援コーディネーターが『つながり・ふれあい 広がる仙北市』を目指し市民の皆さんと一緒に動いていくことになります。

## 角館消防署 西木分署に 高規格救急車導入



10月24日、角館消防署西木分署に高規格救急車が導入され、運用開始式が行われました。

高規格救急車とは、救急救命士が行う救命処置に必要な機材を積載した救急車で、これまでの救急車との大きな違いは、心肺機能停止状態の傷病者に対し、医師の指示のもとに点滴や薬剤投与など、高度な救急救命処置を行うことができます。

今回の導入で市内全域の消防署に高規格救急車が配備されたことになり、救命率の向上が期待されます。



車内の設備について説明する救命士。



店頭で子どもへの虐待防止を呼びかけました。

## 子どもの未来を守る 児童虐待防止 キャンペーン

11月1日、タカヤナギワンダーモール店で市職員が、11月の児童虐待防止推進月間にあわせてPRキャンペーンを行いました。

「子どもへの虐待をなくそう」などと書かれたトイレットペーパーやリーフレットを配付し、子どもへの虐待防止を呼びかけました。